

チーム活動を支援するドキュメントコミュニケーション ～インターネット時代の最適なコンテンツ表現方法の研究

守島浩^{†1}

従来パーソナルコンピュータ上で参照していたペーパードキュメントをベースとしたPDF/EPUBや、それに準拠したHTMLで記述されたWebページの取扱説明書コンテンツを、様々な形態のポータブルなデジタルデバイス上で理解しやすい最適な形式に進化させた次世代のコンテンツ表現手法、作成技術等を研究する。

Document Communication for aiding team activity ～ Study of the next generation of manual content framework in the internet environment

HIROSHI MORISHIMA^{†1}

Currently any product manuals are referred on the digital devices and mostly provided as digital data of PDF, EPUB or HTML based Web pages converted from paper documents straightly. This is a study regarding the next generation's product manual content format and technology on any portable digital devices on the internet environment.

1. 自己紹介(研究をするにあたってのバックグラウンド)

2009年10月より2014年3月まで(株)日立製作所IT製品のユーザエクスペリエンス向上の一環として、製品マニュアルのコンテンツ、制作インフラの改善に取り組んできた。コンテンツはトピック指向で必要な情報を検索できるにし、トピックの記述形式としてDITA^{†2}を採用し、それらを管理するためにコンテンツ管理システムを整備してきた。また配信技術として、製品マニュアルの電子化、インターネット一般公開を果たし、インターネット時代に即した、いつでもどこでもどのデバイスでも製品マニュアルを参照できることを実現してきた。

2. 研究していきたいこと

B ドキュメント作成

これまでインターネット上に配信する製品マニュアルの形態は、アドビシステムズ(株)の提供するPDF形式あるいは電子書籍規格EPUB形式の電子ドキュメント、そしてWebブラウザ上で参照するHTML形式で記述されたWebコンテンツが主流であり、いずれもペーパードキュメントの印刷されることを前提とした書籍形式をそのまま電子化した形態となっている。現在、上記のそれぞれの技術は進化し、タブレット、スマートフォンなどの様々なモバイル

デバイスでも使用することができるようになってきており、電子書籍として参照する使用方法としては既に確立している。検索機能、付箋機能、電子辞書との連携、さらに一部では音声や映像コンテンツを含むものも出現している。一方、モバイルデバイスは、直感的なユーザーインターフェースを持ち、膨大なアプリケーションを利用することができ、インターネット接続が前提でデータをデバイス外に保管するクラウド型の、いわば画期的な情報端末である。特にユーザーインターフェース設計では自由度が高く、直感的でかつ、アプリケーション利用に適切なインターフェースを提供できるようになった。このようなモバイル環境において、製品マニュアルは依然としてペーパードキュメントのレガシー形式を踏襲している段階で、これから様々な進化が期待できる。例えば、映像コンテンツとの融合、製品の利用状態や、位置情報などを活用したユーザー状態と連動した動的なコンテンツの提供、あるいは予め用意されているコンテンツとサービス提供者によるサービスコンテンツと連動したインタラクティブなサービスの提供などによって、これまでにないユーザエクスペリエンスを実現できる可能性がある。本研究では、新時代のモバイルデバイスにふさわしいユーザーインターフェースを提供する電子版製品マニュアルの形態、実現する技術、そして運用について研究するものである。

本研究が製品マニュアルのコンテンツ・形態の研究であるのに対して、プロジェクトカテゴリの他の研究テーマは、チームコラボレーション開発とグローバル化の研究であり、

^{†1}(株)日立メディコ
Hitachi Medical Corporation
^{†2}Darwin Information Typing Architecture

新時代の製品マニュアル制作における典型的な課題として、相互に関係しており、協同して研究していくにふさわしい。また、本研究は、基本的な研究テーマであるため、作成方法・評価方法、実現技術、そして運用と幅広い研究テーマとなり、他のプロジェクトカテゴリの研究テーマで挙げられた課題にも対応していく必要があり、参考とさせて頂いたり、協同して研究していくことができると考えられる。研究会の中でコラボレーションの可能性などについて議論していきたい。

3. 過去の事例紹介

特になし。

4. インタビュー、コラボレーション報告

特になし。

参考文献

特になし。

以上